座談会　脳血管内治療からリハビリまで

企画　朝日新聞社広告局　広告特集

脳卒中と闘う！
脳血管障害からの社会復帰のために

医療技術の進歩により、救命率こそ改善しているものの、要介護レベルの後遺症を残す患者が増えている「脳卒中（脳血管障害）」。脳卒中の予防と治療、後遺症を克服するための取り組みについて、福岡大学筑紫病院脳神経外科の風川清教授、ごう脳神経外科クリニックの呉義憲理事長、大橋ごう脳神経外科・神経内科クリニックの泉浩太郎院長に話を聞いた。

食生活の欧米化により増加する「脳梗塞」

――「脳血管障害」とはどのような疾患なのでしょう。

泉　脳血管障害、いわゆる「脳卒中」は、脳出血、脳梗塞、くも膜下出血の3種類に大別されます。

「脳出血」は、高血圧などが原因で脳内の血管が破綻して出血するもので、「脳梗塞」は、逆に脳を養っている血管が詰まって脳が壊死するもの。そして「くも膜下出血」は、脳表面とその外側にあって脳を包んでいる『くも膜』の間に出血するものです。

40年ほど前までは脳出血が最多でしたが、高血圧治療が普及してきたことにより、高血圧性脳出血は、脳卒中全体の14％弱に減少しています。

呉　脳卒中のおよそ75％を占めるのが、「脳梗塞」です。

脳内の小さな血管が詰まる「ラクナ梗塞」、大きな血管の内壁にコレステロールなどが沈着して『粥状』の塊となった粥腫（じゅくしゅ）がその部位で血管を閉塞したり、あるいはそこに生じた血栓が血流に乗って遊離し、より末梢の血管を閉塞したりして脳梗塞を生じる「アテローム血栓性脳梗塞」、心房細動で生じた心臓内の血栓がやはり血流に乗って脳内の血管を閉塞する「心原性脳塞栓症」の3タイプに大別されます。

医療法人光竹会ごう脳神経外科クリニック理事長・院長
呉　義憲氏

（ごう・よしのり）1989年福岡大学医学部卒。同大学病院脳神経外科、米国テキサス大学MDアンダーソンがんセンター、福岡大学筑紫病院などを経て、04年に開院。日本脳神経外科学会脳神経外科専門医、日本脳卒中学会認定医、福岡大学筑紫病院脳神経外科客員講師。医学博士。

風川　3タイプの脳梗塞のうち、以前は高血圧が主な危険因子となるラクナ梗塞がもっとも多かったのですが、食生活の欧米化などを背景に、近年はアテローム血栓性脳梗塞が多くなっています。

年々進歩し、安全性も高まる脳卒中の治療法

――脳梗塞の治療法は。

風川　発症から4・5時間以内の超急性期に来院された患者さんに対しては血栓を溶かす薬を投与する「血栓溶解療法」がガイドラインでも推奨されています。同時に脳保護材や抗凝固剤を投与し急性期の治療を行います。慢性期治療は脳梗塞予防薬の内服治療が中心となりますが、脳血管撮影の結果、高度な狭窄が明らかな場合は、内服治療だけでなく手術が必要になります。特に頸動脈狭窄の場合、従来頸動脈にメスを入れる内膜剥離術が行われて来ましたが、最近では「血管内手術」が急速に普及しています。

太ももの付根にある大腿動脈からカテーテルを挿入し、狭窄部位をバルーンで拡張した後にステント（微細な網状の金属の筒）で再狭窄を防ぐ「ステント留置術」が高齢者や合併疾患を有するリスクの高い方に広く行われています。

福岡大学筑紫病院脳神経外科 教授
風川　清氏

（かぜかわ・きよし）1982年防衛医科大学卒。国立循環器病センターなどを経て、04年福岡大学筑紫病院脳神経外科部長、08年教授。日本脳神経血管内治療学会指導医、日本脳神経外科学会脳神経外科専門医、日本脳卒中学会認定医。医学博士。

治療中に小さな血栓や粥腫の破片が飛んでも脳梗塞を起こさないように、血管内にフィルター状の器具を置いたり一時的に血流を止めて行う手術法なども開発され、より安全な血管内手術が可能になっています。

――「くも膜下出血」についてはいかがでしょう。

泉　くも膜下出血は、脳卒中全体の6・4％ほどしかないものの、およそ3分の1の患者さんが死に至り、3分の1が社会復帰できない、非常に怖い疾患です。主に、こぶ状に膨らんだ動脈の一部（動脈瘤）が破裂することによって引き起こされます。この動脈瘤を放置すると高率に再出血を来たし、生命が危機に陥ることになるため緊急で手術が必要です。

また、出血による脳のダメージだけでなく、出血後に脳血管がれん縮することで発生する広範囲な脳梗塞、さらに脳脊髄液の吸収障害によって起きる水頭症の、三つの大きな山を越えなければ社会復帰できないのです。

医療法人光竹会 大橋ごう脳神経外科・神経内科クリニック 院長
泉　浩太郎氏

（いずみ・こうたろう）1989年福岡大学医学部卒。鹿児島大学附属病院第3内科、鹿児島市立病院などを経て、11年6月に開院。日本神経学会神経内科専門医・指導医、日本内科学会認定医。

風川　再出血を防ぐための外科手術として、頭蓋を開けて動脈瘤の頸部をクリップで挟む「開頭クリッピング術」と大腿動脈から脳内の動脈瘤まで細いマイクロカテーテルを通し、その中をプラチナコイルを通して動脈瘤の中をコイルで充填する「コイル塞栓術（動脈瘤塞栓術）」があります。

すでに欧米では半数以上の動脈瘤患者さんがこの塞栓術で治療されていて国内でも積極的に導入している施設が増えつつあります。熟練すると多くの動脈瘤で開頭術に比べて短時間で治療が終了します。

後遺症を軽減するための「病診連携」の重要性

――後遺症が残るケースも多いそうですね。

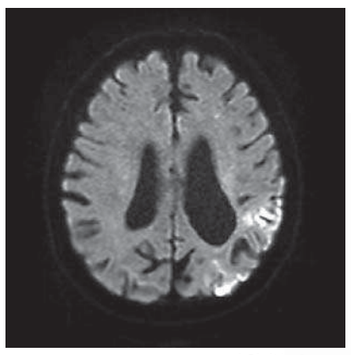
泉　はい、要介護の原因疾患として、脳卒中は約30％を占め1位であり、その比率は年々増加しています。

脳卒中を発症した患者さんの、機能障害をできるだけ軽くするための治療や、脳卒中を起こさないための予防は、我が国の医療現場の急務と言えます。

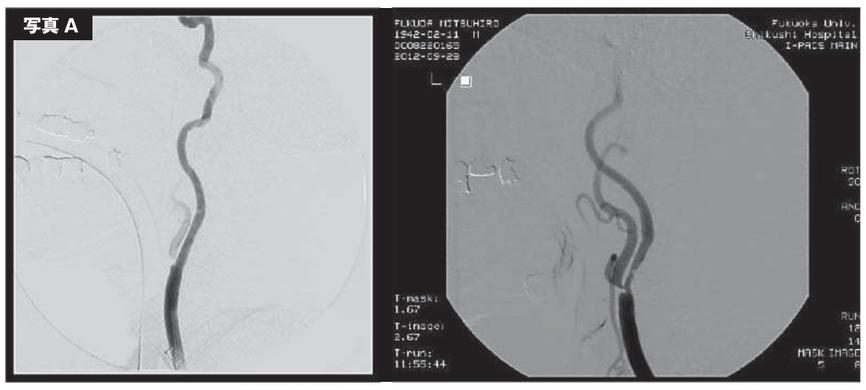
――機能障害を軽くするためには、どのような取り組みが必要なのですか。

呉　右手が動かしづらくなり、言葉も話しづらくなるという症状で当院を訪れた、70歳の男性患者さんの例をご紹介しましょう。

MRI及びMRA検査の結果、左前頭葉から頭頂葉にかけて新しい脳梗塞が存在し、頭蓋内の血管に狭窄は無いが左側の頸動脈に狭窄が認められたため、「アテローム血栓性脳梗塞」と診断。入院していただき、脳保護剤や血液の抗凝固剤、抗脳浮腫剤による薬物療法と同時に、言語療法、作業療法、運動療法のリハビリも開始しました。



来院当初のMRI



写真A

手術後の血管撮影　手術前の血管撮影

約2週間の治療及びリハビリの結果、症状の進行は食い止められたものの、依然として機能障害が見られたため、退院後も外来リハビリを継続し、その後の治療を福大筑紫病院に依頼しました。

風川　当院で脳血管撮影を行ったところ、左内頸動脈に高度な狭窄が見られたため、先に述べたステント留置術を施術しました。その後のMRI検査で新たな梗塞が無いことを確認し、約1週間で退院していただきました。手術前と手術後の血管撮影像を示します。（写真A参照）

呉　その後も当院を外来受診してもらい、引き続き外来リハビリを実施し、機能障害の克服を目指しました。この患者さんの場合、リハビリが順調に推移して後遺症も比較的軽かったため、外来リハビリを選択しましたが、症例により重い後遺症が残ったときは、手術後も入院リハビリを継続することにしています。

また、手術が必要でない場合は「回復期リハビリテーション病院」へ転院していただき、積極的にリハビリを行ってもらっています。

このように、急性期治療から手術、回復期リハビリテーション、慢性期リハビリを含めた外来治療と、各医療機関が連携しながら患者さんをサポートすることが、脳卒中による機能障害をできるだけ軽くする方法と言えるでしょう。

生活習慣の見直しと異常の早期発見が大切

――脳卒中を予防するためには。

風川　脳卒中の最大の危険因子は高血圧です。糖尿病や脂質異常症も危険因子です。これらの生活習慣病をきちんと管理することは極めて大切です。過度の飲酒や喫煙も脳卒中の危険因子となることを意識すべきです。

泉　血圧や血中コレステロール値、血糖値などを適正にコントロールすれば、脳卒中リスクを低減させることができます。

職場の健康診断や特定健診で異常を指摘されたことがある方は、早急に食生活の改善や、必要に応じた薬物療法、禁煙や運動に取り組む必要があります。

呉　近年は、MRIやエコー検査で脳血管や頸動脈の動脈硬化を手軽に検査できる専門のクリニックが増えています。手足のしびれや筋力低下、めまい、ろれつが回らないなどの症状を自覚した場合は直ちに専門医を受診するべきです。また生活習慣病をお持ちの方や家族に脳卒中を起こした人がいる場合は日頃から脳卒中専門医をかかりつけにしておくことをお勧めします。

医療法人 光竹会
ごう 脳神経外科 クリニック
●1.5T 超伝導MRI、入院施設有り●

診療科目　脳神経外科　呼吸器内科　リハビリテーション科
診療時間　平日 8:30～12:00　14:00～18:00　土曜日 8:30～13:00　休診日 日曜日・祝日
※受付は終了30分前迄となります。
P80台
〒811-1244 福岡県筑紫郡那珂川町山田1150-1
TEL 092-951-5219 http://www.kouchikukai.or.jp/clinic

平日19時まで診療しております
医療法人 光竹会
大橋ごう 脳神経外科 神経内科 クリニック
脳神経外科・神経内科・リハビリテーション科
短時間で撮影できる
1.5T 超伝導MRI装置を導入しております。
福岡市南区大橋1丁目9-16
☎092（511）5219
西鉄天神大牟田線「大橋駅」徒歩1分

ごう脳神経外科クリニック横に
1月4日オープン！！
医療法人 光竹会
デイケアセンター錬れん
五感・身体・心…そして私らしく
●通所リハビリ
●介護予防通所リハビリ
☎092（951）5355
福岡県筑紫郡那珂川町山田1150-1

「安心できる生活」「自分らしい生活」を提供する
住宅型有料老人ホーム

ご入居できる方　要介護・要支援／満60歳以上の方
全室個室（18.00㎡）　プライバシー重視で全室個室をご用意。
福岡県筑紫郡那珂川町道善1-121　☎092-951-1165
http://www.kouchikukai.or.jp/g1

日々過ごす よろこびを…。
第1回 福岡県介護グランプリ「優秀賞受賞」
デイサービスセンター
●通所介護
●介護予防通所介護

TEL951-0753 FAX951-0755
http://www.med-brain.com/
㈱メディカルブレイン　福岡県筑紫郡那珂川町西隈1丁目19-10